

# ふるさと観光マップ 長後めぐり 資料編

## 長後の沿革

長後の地は東に境川、西に引地川が流れ、自然の条件に恵まれていたため、縄文時代から人が住み（北部の滝の上遺跡など）、また平安末期には桓武平氏の流れを汲む渋谷庄司重国が支配する渋谷庄という荘園が置かれました。渋谷庄の範囲は不明確ですが、「新編相模国風土記稿」では、七ツ木、千束、長後、下土棚のいずれも渋谷庄としています。また江戸時代になると、旗本家（朝岡氏、竹尾氏、遠藤氏など）の知行地となり、八王子・大山街道が交差する交通の要衝地として長後宿は大いに栄えました。水利と相模台地に恵まれ、農業以外に養蚕・製糸が盛んとなり、明治・大正・昭和初期にかけ地場産業として繁栄しました。昭和4年4月には小田急・江ノ島線が開通し、工場進出と宅地化が大幅に進みましたが、それでも引地川・境川沿岸には、水田や森林が僅かながら残り、昔の面影を残しています。

なお長後の地名について「皇国地誌」は、鎌倉時代、渋谷庄司重国入道長後坊がこの地に居を構えたことから、「長後」と名付けたと伝えています。

また、本来の名は長郷といわれています。高座郷が長後天満宮のそばの引地川と下和田鯖神社のそばの境川を斜めに結ぶ細長い郷で、長後側からみると長い後、長い郷も共に実体を表しています。高座郷の長という意味もあります。

## 滝山街道（八王子街道）

街道は武蔵国多摩郡八王子（東京都八王子市）から境川を越えて、橋本村（相模原市）から相模野台地十一ヶ村をへて、藤沢宿に達する街道です。

滝山街道と呼ばれるのは、戦国時代小田原北条氏の支城、滝山城（八王子市、城主は北条氏照）と玉縄城（鎌倉市）を結んだ古道であります。

この街道は昔から相模野を縦断する重要な道でありましたが、明治期になって製紙工場が各地にでき、原料の繭の輸送の大動脈となりました。特に長後、飯田（横浜市）には大きな製紙工場がありましたので、荷馬車の往来が激しかったそうです。

「上高倉のむかし」より抜粋

## 大山道（かしお道）

江戸方面から大山詣でをする道は、東海道筋では影取（横浜市戸塚区）四ッ谷（藤沢市羽鳥）二宮、平塚等がありましたが最も知られているのは、上高倉、長後を通っていた大山道（かしお道）であります。

先ず東海道五十三次親宿（品川）から五つ目の戸塚宿（柏尾口）→上矢部→岡津→横根→和泉（以上横浜市）→上高倉→長後→用田（以上藤沢市）→恩馬→門沢（以上海老名市）→相模川→戸田（厚木市）→上粕屋→子易（以上伊勢原市）→大山参道

宝永以後の大山への道筋といわれる。本道が大山道となったのは長後宿（藪鼻宿）に旅籠等が発展してきたことに関係しているといわれる。一説には寛政・享和（1800）以降ともいわれる。

「上高倉のむかし」より抜粋

## 元大山道（かしお道）

元長後村の名主であった関水家所蔵の文政年間の「千束・七ツ木村古地図」（明和二年-1765）に「元大山道」と記されている。宝永以前（1704～1710）の大山道といわれる。関水苑際の庚申塔（寛政四年-1751）側面に「加志をみち」とあるのはこの道である。

「長後・下土棚地区の史跡を訪ねて資料」より抜粋

## ほしのや道

藤沢市善行の県立総合グラウンド付近から八王子街道（滝山街道）から分かれて西北に進む道で、六会橋から円行大橋・下土棚の夏刈・上土棚・綾瀬早川・小園・海老名市国分寺を通り座間市の星谷観音（坂東33か所観音第八番札所）を経て八王子に至る道である。地元では、この道を星谷観音に至る巡礼道として『ほしのや道』と呼び、また『八王子道』とも呼んでいた。この『ほしのや道』の周辺地域には、『ほしのや道』と道標を刻した庚申塔などが多く所在している。

「長後・下土棚地区の史跡を訪ねて資料」より抜粋

## 塩つけ道

昔、馬の背に塩をのせて横浜の金沢六浦方面から、鎌倉の朝比奈峠を越えて、藤沢南部から北上し、西俣野の金沢橋を過ぎて長後に至り、内陸の八王子・座間方面へ輸送した道で「塩つけ道又は塩引道」と呼ばれた。現在ではその殆どが寸断されて不明の箇所が多い。相鉄線の相模大塚駅南方の水頭橋・蓼川神社付近にも「塩つけ道」が残っている。

「長後・下土棚地区の史跡を訪ねて資料」より抜粋